



浜小だより

茅ヶ崎市立浜須賀小学校

2025年5月30日

6月号

学校教育目標 「未来をひらく浜小の子」～遊ぶ 学ぶ 助け合う～

校長 青柳 和富

『安全・安心』は、相互理解から

地域学校参観日、授業参観日には多くの皆様にご来校いただきありがとうございました。正門から教室に向かう道すがら、保護者に両手を繋いでもらった児童がスキップするという微笑ましい光景も見られました。また、各活動場所では皆様の温かなまなざしの中、いつもよりちょっぴり張り切った子どもたちと、教員が前向きに織りなす学習活動をご覧いただくことができたことと思われまします。今後も学習活動の公開や面談等の機会の充実を図りながら、ご家庭と学校とが子育てのよきパートナーとして連携を深めていかれるよう努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

授業参観や運動会等の学習公開の機会には、こうした保護者の皆様との連携という目的に加え、「子どもたちの今（教育の今）について世代を超えた理解を図れるメリット」があると考えています。大人の誰もが昔は小学生であり、その時々々の社会のニーズに応じた教育を享受してきました。社会情勢の変化の加速化に伴い、昨今学校教育の在り方についても大きな舵取りが行われてきたことから、「昔はこんな風に教わっていたはずなのに」と思われることも少なくないと思います。「百聞は一見に如かず」の学習公開の機会は、そうした世代間のギャップの擦り合わせを行える貴重な機会であると考えています。もちろん、教育の世界でも不易と流行があり、概ねどの学校においても、「知徳体のバランス」を中核に据えた学校教育目標を掲げていますが、「社会に開かれた学校（社会の状況を踏まえた視野の広い学校教育を通じてよりよい社会を創る子どもたちを育ていく教育）」を重視する令和の学校教育は、これまで以上に子どもたちの主体性を重んじたり、ICTを活用したりするなど、教育手法の大きな転換がなされています。そんな今の時代の学習活動の在り方を、異なる世代や環境で育った大人が共有できることも、学習公開の大きなメリットです。

いつの時代もその立場に寄せて考えることの大切さについて書かれた詩を紹介します。

子供しかるな 来た道じゃ 年寄り笑うな ゆく道じゃ

—作者不詳—



*原文は「子供しかるな 来た道だもの 年寄り笑うな ゆく道だもの 来た道 ゆく道 二人旅 これから通る 今日の道 通り直しのできぬ道」

子ども時代は、大人の誰もが通ってきた道。通った道は理解しやすい。そう考えると、子どものことをやみくもに叱る大人は実はそんなに多くはない。一方、年寄りは、当事者以外は未知の世界。だから当事者の気持ちが実感としてイメージできない。それは、障がいのある方も妊婦の方も同じ。性別も国籍も…。「差別は無知からくる」と言われますが、そうならぬよう、教えるべきは教え、そこからさらに様々な立場の他者への想像力を育むことが大切になります。そうした想像力は、自分が関わる全ての他者の安心感にも繋がります。学校目標に掲げる「安全・安心」もこんなところから始まるのだと思っています。

さて、その学校教育目標実現のための本年度の学校経営計画、並びにその計画を端的に示すグランドデザインについて、5月開催の学校運営協議会で承認をいただきました。本年度は、昨年度までの方針を踏襲しつつ、よりシンプルで分かりやすい形に変更いたしました。目指す学校像につきましては、「**安全・安心な環境の中で大人も子どもも共感性を持って学び育ち合える学校**」です。各学年・学級において全教職員がこの学校像を具現化できるよう努めてまいりますので、引き続き本校の教育活動へのご理解・ご協力をお願い申し上げます。なお、学校経営計画につきましては本校ホームページの「校長先生の部屋」に掲載させていただいておりますので、ご一読いただけますと幸いです。